

した。今年は第5回目である。

参加者は中・高校教員が圧倒的に多いものの、会社員、薬剤師、主婦と幅広い。例年どおり大多数は東海地域在住者であるが、近畿や関東地域からの参加者もあった(定員80名)。今回は、霊長類の特徴を組織学、神経生理学、運動様式、動物社会学の観点から取り上げ、さらに人類の起源論へと話題を押し進めた。また、参加者全員に対し実習を行い、自分自身で研究の現状が理解できるよう配慮した。

講義題目と講師は以下のとおりである。

総合司会 相見 満

歯の内部構造	野上 裕生
視覚認知と記憶	三上 章允
サルの歩き片	木村 賛
社会進化と家族の起源	加納 隆至
染色体実習	石田 貴文
骨学実習	毛利 俊雄
神経生理学実習	久保田 競
心理学実習	松沢 哲郎

夏期セミナー

学部学生を対象とした夏期セミナーを、今年初めて開いた。当初20名の募集定員を、余りにも盛況だったので、受け入れ限界の40名に増やした。北は東北から南は鹿児島まで、予想以上に多くの大学からの参加がたあった。

プログラムは次の通り。

7月28日(金)

所長あいさつ

10:00-11:00 形態基礎研究部門(毛利俊雄)
11:00-12:00 系統研究部門(相見満)
13:00-14:00 心理研究部門(松沢哲郎・正高信男)
14:00-15:00 社会研究部門、ニホンザル野外観察施設(加納隆至・渡辺邦夫)
15:00-16:00 生活史研究部門(杉山幸丸)
16:00-17:00 所内見学
19:00- 懇親会

7月29日(土)

9:00-10:00 変異研究部門(庄武孝義)

10:00-11:00 生理研究部門(目片文夫)
11:00-12:00 生化学研究部門(竹中修)
13:00-14:00 神経生理研究部門(久保田競)
14:00-15:00 サル類保健飼育管理施設(松林清明)
15:00-17:00 総合討論(各関係教官)
セミナーは好評で、参加者の中から毎年続けてほしいとの意見が出てくるほどだった。

学位取得者と論文題目

理学修士(霊長類学専攻)

小林 隆: 都井岬の半野生馬における集団構成と雌雄間の社会的交渉の季節変化
松村秀一: ニホンザルワカオスの隣接群個体との相互交渉および隣接群への移籍
橋本千絵: 野生ニホンザルにおけるオトナとコドモの採食行動の違いについて
河本敏男: 視覚的到達運動(visual reaching)における頭頂連合野のニューロンの役割